

平成18年度 ハラスメントに関するアンケート集計結果

(第1回：教員と学生の関係編)

長崎大学教育学部

ハラスメント防止委員会

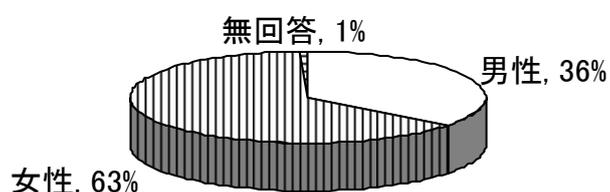
アンケートは、無記名で、学生には主に授業時などに配布を行い、時間がある場合は授業の最後に回収し、時間がない場合は学務係の回収ボックスに入れてもらいました。教員へは、教授会の折に配布し、学務係の回収ボックスに入れてもらいました。

回答者総数：990

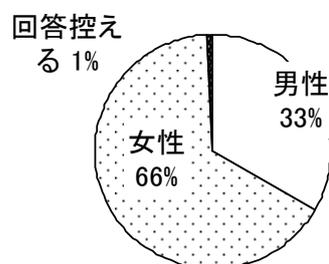
有効回答数：934（94%）

問1 あなた御自身のことについて伺います。あなたの性別を教えてください。

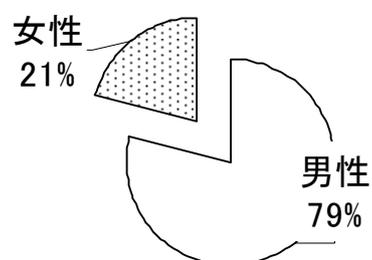
問1 回答者性別



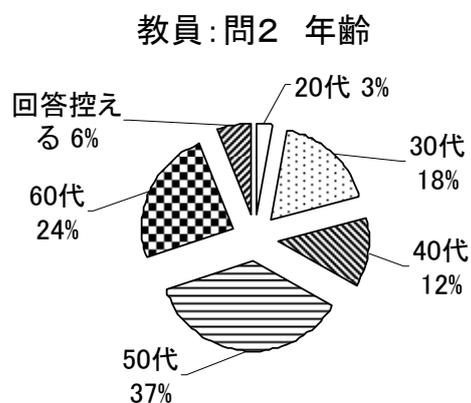
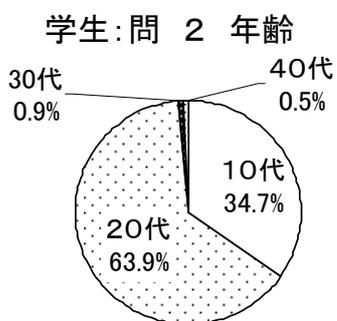
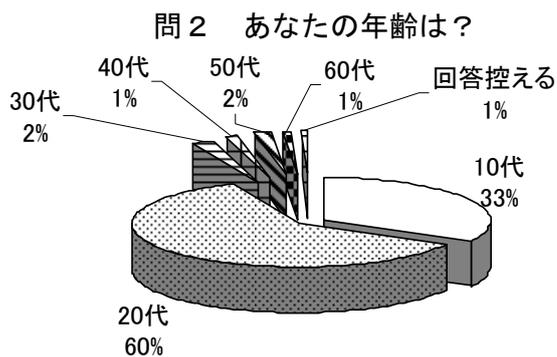
学生：問1 回答者性別



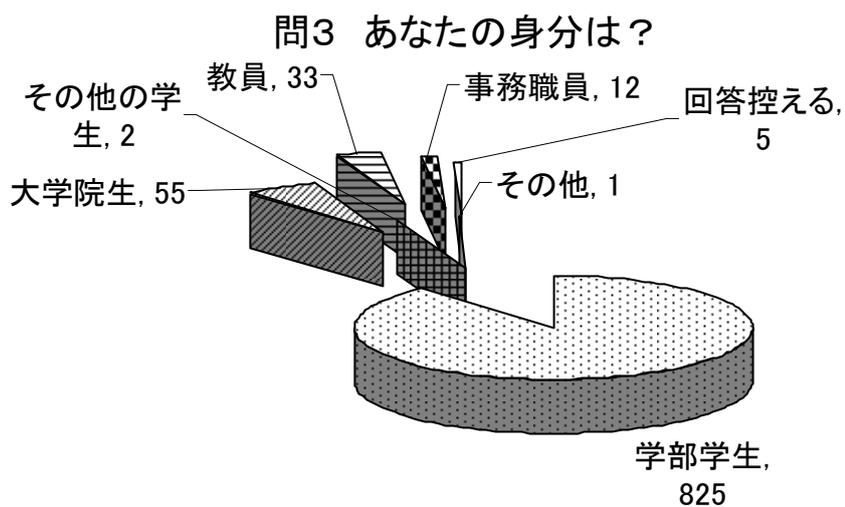
教員：問1 回答者性別



問2 あなたの年齢の年代を教えてください。



問3 あなたの身分について教えてください。



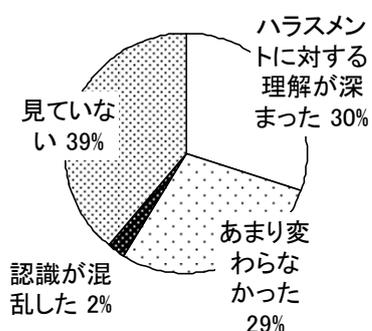
教員回答率：41%

〔コメント〕

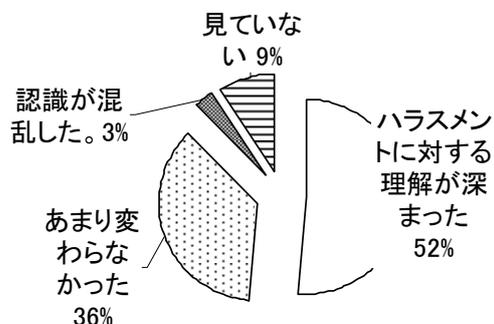
学生の回答率は約75%でしたが、教員の回答率は41%と低くなりました。男女比は、男性36%に対して女性63%（回答控える1%）でした。これは、学部の女子学生の比率が高いことが影響しています。また、教員の回答率が半数に達していないことから、以下の各設問に対する回答分布は、教育学部教員全体の傾向を必ずしも表わしているものではないことに注意が必要です。

問4 今年4月に配布された教育学部のハラスメント防止パンフレットをご覧になりましたか。また、ご覧になってハラスメントに対する理解は深まりましたか。

学生：問4 パンフレットについて



教員：問4 パンフレットについて



〔コメント〕

「パンフレットを見ていない」という回答が4割近くあったことは、パンフレットは手にしたが、パンフレットを見ていない学生がかなりの数に上ると予想されます。このことは、ハラスメントに関心を持たない学生が潜在的に多いことを示しており、粘り強くハラスメント防止の啓発活動を行うことの必要性を示しています。一方、「ハラスメントに対する理解が深まった」という回答が3割あり、パンフレットによる啓発の有効性がある程度実証されたものと考えています。

次に事例別にアンケートの回答結果を紹介しますが、以下の事例がハラスメントにあたるかどうかは、当事者間のそれまでの信頼関係や状況によって、受け取る側がどう感じるかと、その感じ方がどのくらい合理性を有しているかによります。つまり、教職員（授業者）として不適切な言動がすなわちハラスメントとなるわけではありません。このことを考慮の上、ご覧ください。尚、このアンケートやそのコメント中にある、「相談室へ相談に行く」とは、相手方の言動をハラスメントとして、大学当局に「苦情申し立て」を行うことだけを指すも

のではありません。「不安ややり場のない感情を相談員に聞いてもらう」ことも含めて「相談する」という意味で用いています。

事例1. 研究室内のゼミ発表において

K君は、理科系の大学院生です。これまで、K君は自ら参考となる文献を探したり、他の研究室の教授に指導を仰いだりして、新しい測定法を考案し試みしました。その結果をゼミナールで発表することになりました。

K君：『この測定法は、特殊な測定法のため、通常の測定条件から大幅に変更して行いました。その結果をレジュメに載せてあります。これらの結果は、化合物の構造から予想されるものとは一致せず、解析ができない測定結果となってしまいました。測定条件に問題があるのか、そもそも装置自体が今回の測定条件に対応していないのか、今のところ正直わかりません。』

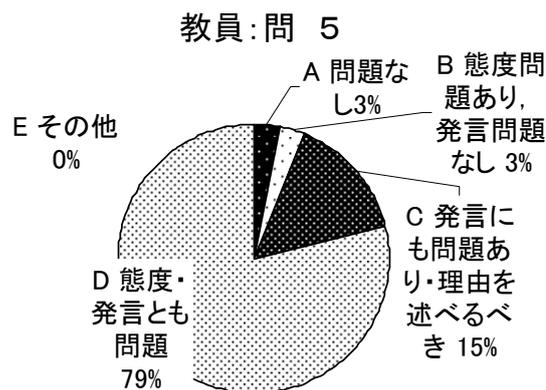
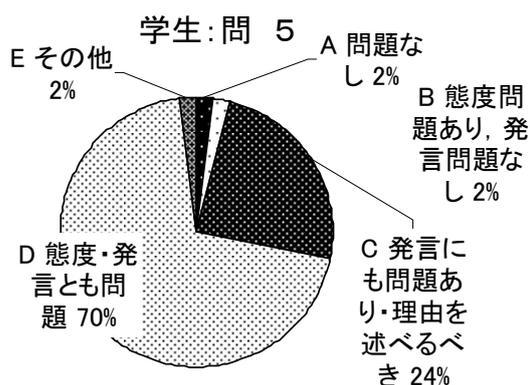
K君の発表の後、研究室のスタッフや他の大学院生からいくつかの質問がありました。発表の間、教授はうつむいて目を閉じ、聞いているのか、居眠りをしているのか、傍からはわかりませんでした。質問がなくなりしばらく沈黙が続いたあと、おもむろに口を開いてこう発言しました。

教授：『これは、ダメだな。こんな測定法は止めたほうがいい。ゼミは終わりにしましょう。』

K君は、眠っていたとばかり思っていた教授が突然発言したかと思うと、否定的な見解を述べられたのにショックを受けました。何か有益な助言がもらえないかと期待していたK君は、さっさと退室していく教授やスタッフ、他の学生を呆然と見送るしかありませんでした。

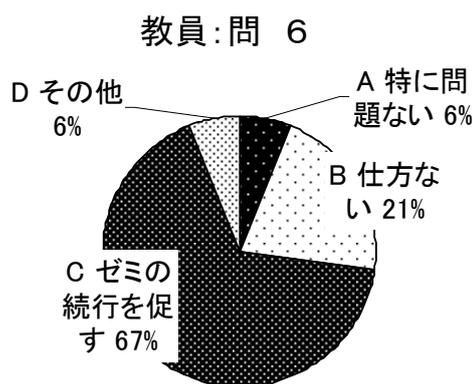
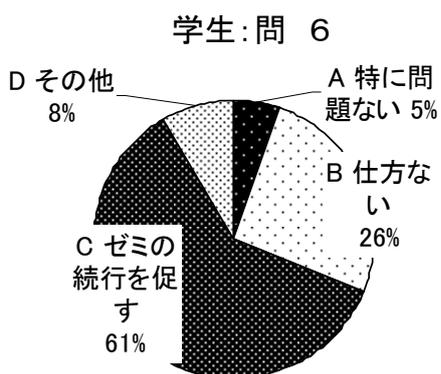
問5 上の事例を読んで教授の態度・発言を、どう思いますか。あなたの考えに、最も近いものを下から選んでください。

- A. 特に問題はない。
- B. 居眠りをしているような態度は問題があるが、発言は特に問題はない。
- C. 発言に問題がある。測定法の中止を言い渡すにしても、理由を述べるべきである。
- D. 教育者としてとるべき態度・発言ではない。発表は、もっと真摯に聞いて、何が問題なのかをK君にきちんと説明し、測定の中止についてK君の同意を求めるべきである。
- E. その他



問6 研究室の他のスタッフや大学院生は、教授の後についてゼミ室を退室していきました。この態度について、あなたはどのように思いますか。最も近いと思うものを下から選んでください。

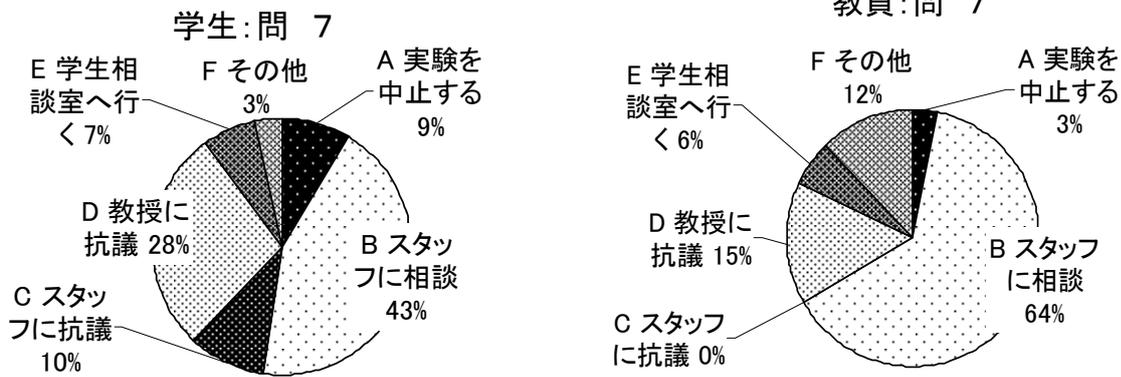
- A. 特に問題はない。
- B. 本来は、K君に声をかけるぐらいしてあげても良いと思うが、教授の手前、このような態度をとったのは仕方ない。
- C. 研究室のスタッフは、「もう少し検討してみましょう。」と、ゼミの続行を促すような発言をしても良かったのではないか。
- D. その他



問7 もし、あなたがK君であったなら、ゼミナールの後、どのような行動をとりますか。最も近いものを下から選んでください。

- A. 特に何の行動もとらず、言われたとおり、この測定法での実験を中止する。

- B. 研究室のスタッフに相談して，教授の真意を探る。
- C. 他の大学院生と相談して，研究室のスタッフに抗議をする。
- D. 教授に直接，抗議をする。
- E. 学生相談室へ相談に行く。
- F. その他



[コメント]

問5の回答分布をみると、学生、教員ともに、7割～8割の人が教員の発言・態度には“問題がある”（“ハラスメントである”と見なしているかどうかは別として）と回答しています。この点においては、学生と教員との間に差はないといえます。問6のその時の研究室スタッフの行動に関しては、6割の人が「ゼミの続行を促すべき」と回答しています。問7で、その後のK君の行動に関する回答分布をみると、学生はスタッフに相談あるいは抗議が5割を占め、教員側の回答分布の6割とそれほど差はないと言えます。この事例では、学生相談室へ相談に行くと回答した割合は、学生、教員とも1割以下であり、相談室など他の部署への相談の必要性を感じておらず、研究室内で解決を図ろうとする意識が働いていることがうかがえます。しかし、このようなことが続くと学生にとっては、プレッシャーを感じる要因となり、場合によっては学習・研究意欲の減退につながることも考えられます。研究室内だけで解決を図ろうとせず、早めに相談室へ出向いて相談をすることが、肝要です。

事例2. 授業において

30名くらいの受講学生がいるクラスの中で、Fさんは飛びぬけて“よくできる”学生です。ある日の授業の様子です。

教員：『では、どうしてこのような問題が生じたと思うかね。その背景を誰か説明できるも

の？ C君どうですか？』

C君：『は一、よくわかりません。』

教員：『前の授業で説明しただろう。聞いていなかったのか？では、Aさん。』

Aさん：『その頃、中国では・・・』

教員：『ダメダメ。ぜんぜん違うよ。前の授業で何を聞いていたの？寝てたんじゃないの。もう、しょうがない。じゃ、Fさん。』

Fさん：『はい、その頃日本政府は・・・』

教員：『うん、よろしい。さすがFさんだ。きちんと復習しておるな。それにひきかえ、何だ他の者は。相変わらず、出来が悪いな。少しは、勉強する気があるのかね。じゃ、Fさん。次の問題についてはどう思う？』

Fさん：『はっ、はい。それは、・・・』

教員：『うん、よろしい。私も同じ意見だよ。じゃ、Fさん。3番目の問題についてだが・・・』
という具合に、授業は教員とFさんとのやり取りが主体で進行していきます。他の学生は、ほぼ毎回黙ってそれを聞いているだけです。

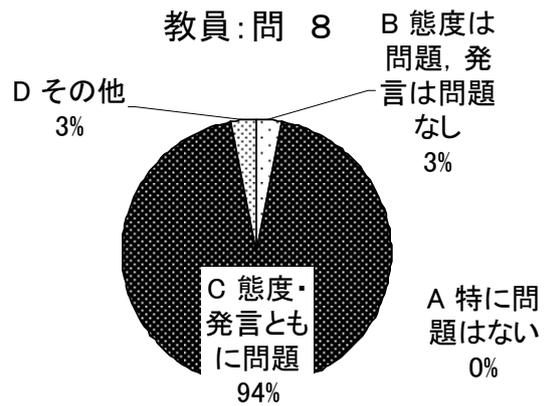
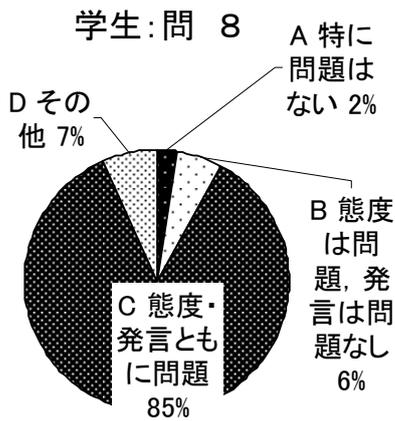
問8 この授業における教員の態度・発言について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに、最も近いと思うものを下から選んでください。

A. 特に問題はない。

B. Fさんばかりとやり取りをして、^{ひいき}最^{ひいき}をしているような態度は問題があるが、発言は特に問題はない。

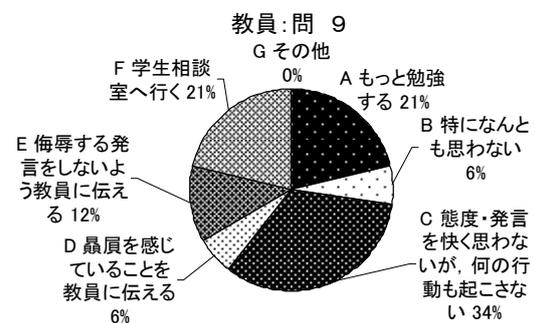
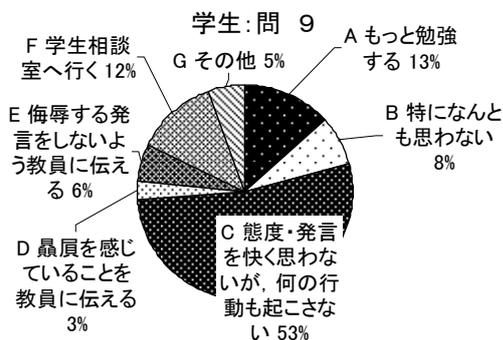
C. 態度にも、発言にも問題がある。特に『それにひきかえ、何だ他の者は。相変わらず、出来が悪いな。』という発言は、他の学生の学習意欲を損ないかねない発言であり、慎むべきである。

D. その他



問9 もし、あなたがFさん以外の学生であったなら、あなたはどのような行動をとりますか。最も近いと思うものを下から選んでください。

- A. Fさんのように、授業についていけるようもっと勉強をする。
- B. 特に何とも思わないので、何の行動も起こさない。
- C. 教員の態度や発言は、快く思わないが、特に何の行動も起こさない。
- D. Fさんばかりが鼻負されているように感じていることを、教員に伝える。
- E. Fさんが鼻負されていることと、自分たちを侮辱するような発言をしないで欲しいと教員に伝える。
- F. 学生相談室へ、この授業を改善して欲しいと相談に行く。
- G. その他



[コメント]

問8の回答分布をみると、学生、教員ともに、8割～9割の人がこの授業時における教員の発言・態度には“問題がある”（“ハラスメントである”と見なしているかどうかは別として）と回答しています。この点においては、学生と教員との間に差はないと言えます。問

9のその後の行動に関する回答分布をみると、“何の行動も起こさない”とした学生が5割を超えたのに対して、教員では3割余りと学生と教員との間に差が表れました。また、両者に言えることとしては、何らかの改善を目指した行動をとる学生、教員ともに4割以下であることです。この事例がハラスメントにあたるかどうかは、当事者間のそれまでの信頼関係や状況によって、受け取る側がどう感じるかと、その感じ方がどのくらい合理性を有しているかによります。つまり、授業者として不適切な言動がすなわちハラスメントとなるわけではありません。しかし、この事例のような状況が続くことは、学生が必ずしも学びやすい修学環境にあるとは言えないでしょう。その改善を図る努力が、学生にも、さらに教員にはより強く求められると言えます。

事例3 成績の問い合わせについて

U子さんは、4月になり昨年度の成績表を見て、愕然としました。忌引きで休んだ1回を除き、他の授業日はすべて出席し、課題レポートもすべて提出したはずの授業の単位が取れていなかったからです。この授業は必修ですから、卒業までに単位を取得しないと当然卒業はできません。U子さんは、この評価に納得がいかなかったため、理由を尋ねるため担当のR教員の研究室に赴きました。

U子：『J教育課程のU子です。R先生、私は昨年度後期の先生の授業「△△△論」が不合格になっていました。何かの間違いではないでしょうか。私は、授業はすべて出席しましたし、レポートも提出しています。調べてみていただけないでしょうか？』

R教員：『うーん、明日から学会で忙しいんだよ。しょうがないな一ちょっと今調べてみるから……。あー学生番号9876の〇〇U子さんだね。君、すべて出席しているといっていたが、1回休んでいるじゃないか。』

U子：『あの一、それは祖父が亡くなったので忌引きの届けを出したはずですが……。』

R教員：『もっ、もちろん、出席だけの問題じゃないんだよ。レポートの出来が悪かったんじゃないか？』

U子：『4回のレポートはどういう評価になっていたのでしょうか。』

R教員：『とにかく悪かったんだよ。だから、不合格になったんだ。私の評価に文句があるのかね。』

U子：『いえ、ただ不合格になったのなら、どういう理由で不合格になったのかを知りたくて……。』

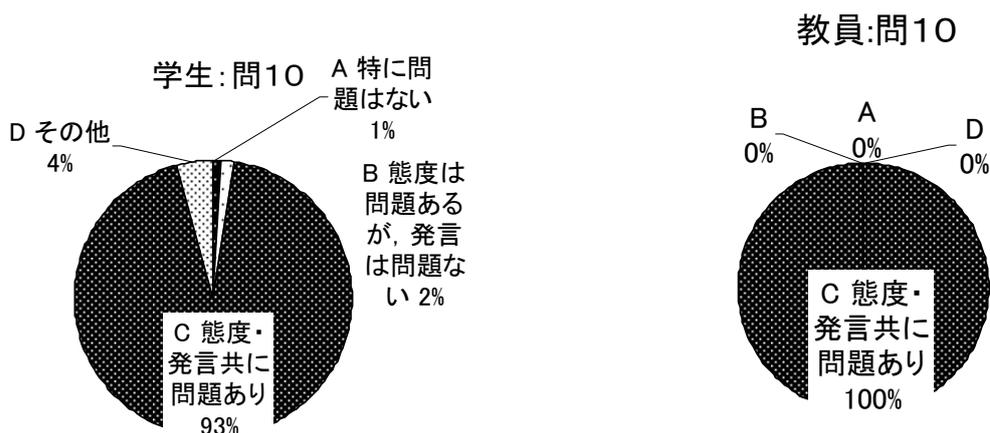
R 教員：『だから、言ったじゃないか。きっとレポートの出来が悪かったんだよ。忙しいから、もういいだろう。今年も授業はあるから頑張って取り直しなさい。』

U 子：『えっ、で、でも・・・』

R 教員は、それには答えず、U 子さんの存在を無視するように、他の仕事を始めた。

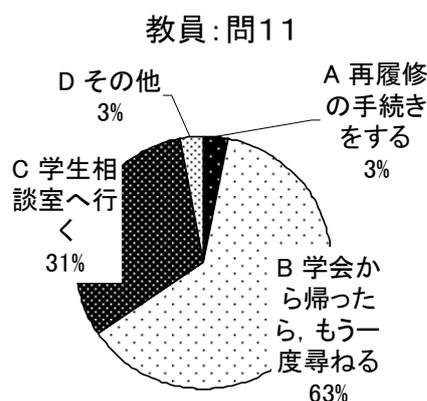
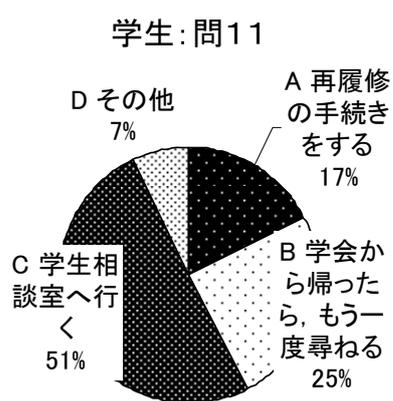
問 1 0 この教員の態度・発言について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに、最も近いと思うものを下から選んでください。

- A. 特に問題はない。
- B. 最後の無視した態度には問題があるが、発言は特に問題はない。
- C. 態度にも、発言にも問題がある。特に 4 回のレポートの評価の記録をきちんと調べていないと思われる点が問題である。
- D. その他



問 1 1 もし、あなたがU 子さんであったなら、この後、どのようにしますか。あなたの考えに、最も近いと思うものを下から選んでください。

- A. 仕方がないので、この授業の再履修の手続きを行う。
- B. R 教員が学会から帰った頃を見計らい、もう一度理由を尋ねる。
- C. 学生相談室へ相談に行く。
- D. その他



[コメント]

問10の回答分布から学生・教員ともに9割以上の人々が、この事例の教員の発言・態度には問題があると認識しています。問11の回答分布から、学生では、5割の人が「学生相談室へ相談に行く」と回答しており、教員の3割を大きく上回っています。これは、学生が単位の取得状況にかかわる事柄を非常に重視していることを表しています。この点については、学生と教員との間に認識に差があることを示していると考えられます。この事例のようなやり取りは別として、一般に授業の単位取得の要件については、教員は学生に対してシラバスに明示、あるいは授業中に明確に示すことが肝要です。その上で、学生の単位取得状況に対する問い合わせには、誠実に応えることが、学生の学習意欲を継続させることに繋がると言えます。

事例4 男性教員からの誘い

普段は4名ぐらいのゼミナールですが、その日はたまたま他の学生は就職活動や急病で欠席し、出席していたのはJさん一人でした。ゼミナールの発表は一人だけでしたので、短時間で済み、残った時間でゼミの教員と世間話をしています。

教員：『そういえば、先週S生命ビルの7階に新しいイタリアンレストランが開店したらしいよ。Jさんは、イタリアンが好きだったよね。』

Jさん：『はい、大好きです。あー行ってみたいな。』

教員：『どう、これから行って見ない。ゼミも早く終わったことだし、私もこの後の予定は入っていないから。』

Jさん：『えー、本当ですか？わー、嬉しい。行きます。行きます。』

教員：『よし、じゃ予約を入れておかななくちゃね。早速電話してみよう。』

Jさんは、夕食代が浮くことと、大好きなイタリア料理が食べられることで、“今日は私だ

けがゼミに出席していて、ラッキー！”とっていました。

教員：『タクシーも呼んでおいたから、人目につかないように北口のほうへ回ろう。』

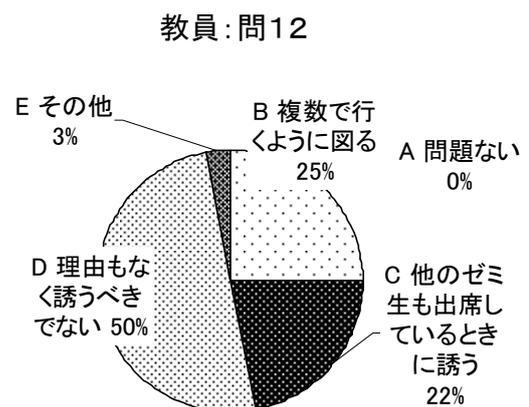
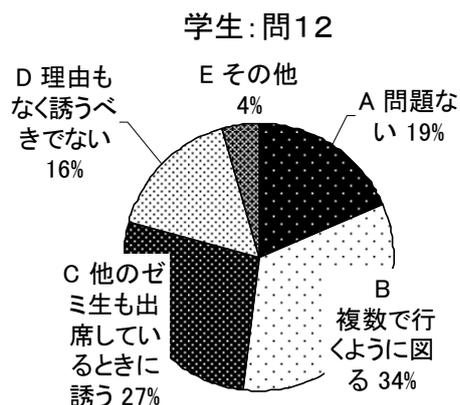
Jさん：『はい。』

北口に呼んだタクシーの後部座席に教員と並んで座ったときに、Jさんは、ふと漠然とした不安感におそわれました。“これまでゼミの飲み会ではみんなと一緒にだったけど、今日は先生と二人きりなんだ。それになんで、人目につかない北口からタクシーに乗るんだろう。あー、やばいかもしれない。でも、もうタクシー乗ってるし、予約も入れてあるし、今から『止めます』なんて言えないよー。どうしよう。”

問12 Jさん一人を食事に誘った教員の態度・考え方について、あなたはどのように思いますか。

あなたの考えに、最も近いと思うものを下から選んでください。

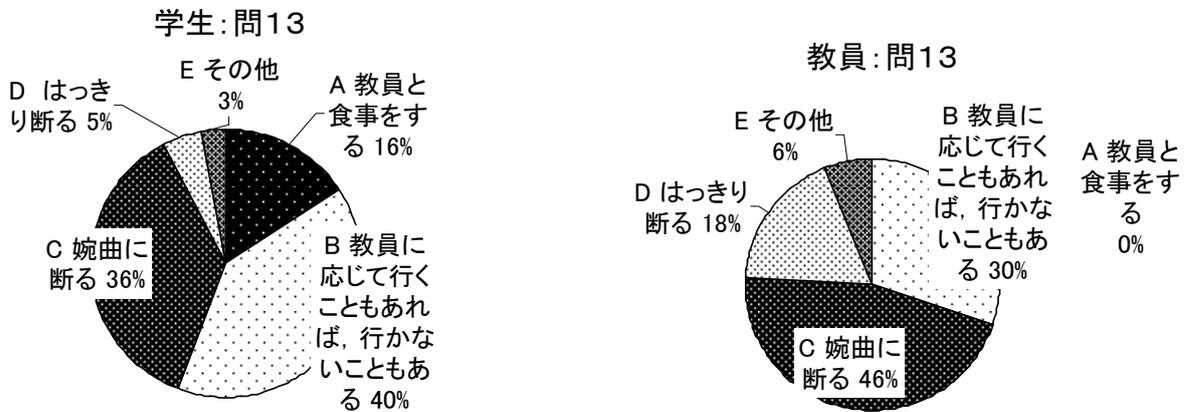
- A. 特に問題はない。
- B. Jさん一人を誘うのではなく、同僚教員や他のゼミ学生などに声をかけ、複数で行くように図るべきである。
- C. 他のゼミ生も出席しているときに、食事に誘うべきである。
- D. そもそも、むやみに、理由（ゼミの打ち上げなど）もなく学生を食事に誘うべきではない。
- E. その他



問13 もし、あなたが上記のように教員から食事に誘われたら、どのような行動をとりますか。最も近いと思うものを下から選んでください。

- A. 特に教員を意識することなく、教員とレストランに行って食事をする。

- B. 教員に応じて、レストランに行くこともあれば、断ることもある。
- C. 『先生、今度Sさんもいるときに一緒に行きましょう。』と婉曲に誘いを断る。
- D. 『二人で行くのはよくないと思うので、私は行きません。』とはっきり断る。
- E. その他



〔コメント〕

問12の回答分布をみると、学生と教員との間におおきな違いがあることがわかります。それは、教員では、この事例の教員の態度・考え方に“問題はない”と回答した人は、一人もいなかったにもかかわらず、学生では2割近くが“問題はない”と回答していることです。また、5割の教員が、「そもそもむやみに学生を食事に誘うべきでない」と回答しているのに対して、学生では、その割合は2割に届いていません。このような意識の違いは、次の問13の回答分布にも表れています。この事例のように異性の教員から食事に誘われた場合、“特に意識することなく食事に行く”と“相手によっては食事に行く”は、教員では3割しかいませんが、学生では、5割強の人が“食事に行ってもよい”と考えていることです。このことは、教育学部の教員が信頼されているとも受け取れますが、学生のハラスメントに対する意識が低いことも考えられます。今後も、継続的なハラスメントの防止とその啓発活動が必要であることを暗に示していると考えられます。

問14の自由記述欄には、質問やハラスメントの事例を記入いただきました。今後のハラスメント防止に役立てていきます。ありがとうございました。

以上